

農地整備環境機能増進事業（北赤井地区） の取り組み紹介

環境に対する国民のニーズの高まりがみられるなか、平成14年度に施行された新しい土地改良法では、事業実施にあたり原則として「環境との調和への配慮」をすることが、第1条に明記され、農業農村整備事業は環境創造型事業への転換が図られることとなりました。こうした環境創造型事業を実施していくにあたっては、事業の実施段階から地域全体で環境の維持や増進に取り組むことが必要になってきます。「農地整備環境機能増進事業」はこうした維持・増進活動を支援することを目的に平成14年度に創設されました。

北赤井地区においては、平成14年度にほ場整備事業が採択されたこと、またH8～13年度にかけて実施された「みやぎの快適農業農村づくり支援事業（アグリベース型）」によって地域活動が根付いていたことなどから、地域住民の環境に対する関心が高く、本事業に取り組むこととなりました。

事業1年目である今年度は、推進体制の整備や研修、活動計画の検討等を中心に取り組みました。推進体制については、ほ場整備事業の受益農家の方々や赤井小学校の関係者の方々など23名で構成する「北赤井地域づくり推進委員会」を設立しました。委員会では研修として、県庁担当課からの講話や先進事例のビデオ上映といった研修会、ほ場整備地区内に設置した保護池において、絶滅危惧種の魚類を保護している寺沢地区（秋田県雄勝町）等への先進地研修等を重ね、維持・増進活動の取り組み・手法を勉強しました。また、今後の具体的な維持増進活動に結びつける活動として、道路沿いへ花の植栽活動も実施しました。

こうした活動を経て、来年度からは実践活動のひとつとして、赤井小学校と連携し、体験型学習活動を計画しています。実施にあたっては、農家の子供たちだけでなく、広く非農家の子供たちにも参加してもらうことで、環境保全の大切さを理解してもらい、将来の農村環境を維持・保全していくことを目指しています。このように来年度からは具体的な実践活動をとおして、将来の農村環境の保全を検討することとしています。なお、来年度からは事業統合により「田園環境保全・再生事業」として実施していく予定となっています。

めだか のすめる たんぼ づくりをめざして

宮城県石巻産業振興事務所 農業農村整備部

〒986-0812 石巻市東中里1丁目4-32

Tel 0225(95)1411 (内)478
Fax 0225(96)4880
E-mail iss-s-kt@pref.miyagi.jp
URL <http://www.pref.miyagi.jp/issgsin/>

編集・発行
宮城県石巻産業振興事務所 農業農村整備部



ほ場整備事業 寺沢地区
保護池視察の様子



地区内への植栽活動

知っていますか？ 農業農村整備部のホームページ・・・

石巻産業振興事務所農業農村整備部のホームページはご覧になったことはありませんか？

農業農村整備部のページでは、石巻管内の事業概要や「地域産業の学習講座」の情報などを掲載しています。また、石巻管内農業農村整備事業地区一覧表のダウンロードもできるようになっています。

詳しい情報を見やすく・リアルタイムに提供し、関係機関の皆さんだけではなく、一般の方々なども広く活用できるものにしていきたいと考えています。

アクセスは石巻産業振興事務所HP(<http://www.pref.miyagi.jp/issgsin/>)から「分野別案内」 「農業農村整備」をクリックしてください。



Nougyou Nouson いしのみきNN通信



上品山山頂より望む石巻管内の風景

このたび、石巻管内農業農村整備の広報誌「いしのみきNN通信」を発刊することとなりました。「いしのみきNN通信」は、年数回発行し、石巻管内の市町・土地改良区・農協・小中学校などをはじめ、県各所へ配布していく予定です。農業農村整備事業に対する理解を得ることを目的とし、今後は農業農村整備部からの情報提供だけでなく、管内各機関による情報の交換の場としての活用も検討しておりますので、掲載希望の情報等がありましたら計画調整班までご一報ください。今後ともよろしくお祈りいたします。

発刊にあたって

昨年はノーベル賞受賞者の田中さんの一挙手一投足、そしていろんな場面で発せられる人情味あふれたコメントが大いに関心を呼び、そして共感を呼びました。日本人の忘れかけていたものを思い出させてくれ、日本全体が和やかな雰囲気にも包まれたものです。多摩川や歌津町に現れたアザラシ君も大いに沸かせてくれました。

そして、ワールドカップサッカー大会開催に際してハブニング続きのなかで、中津江村の温情味あふれる対応が賞賛され、日本一の村の名をとどろかしました。大いに参考にしたいものです。

石巻管内におきましても明るい話題がいっぱいです。

土地改良野球大会こそ奮いませんでしたが、石巻川開き祭りの際に開催された「孫兵衛船競漕」においては、史上初の予選1位突破を成し遂げました。また、日常業務の傍ら、日頃の研究成果をとりまとめ、5回も発表したことにより、農業土木学会から優秀職員として表彰を受けております。また、国際協力のための技術援助として中国への職員派遣もいたしました。

そしてまた、既存業務の枠にとらわれない活動も積極的に展開しております。そのひとつとして、将来を担う子供たちが、農業に対する理解と関心を深められるよう、「地域産業の学習講座」を関係機関と連携し開催しております。田んぼの生き物調査や水質調査など、近くにありながら関心が薄らいでいる農村環境に対し、関心が得られるよう遊び心を加味した内容で、本年度は北上町と河北町で開催し、大変好評を得ております。

このように、本来の農業農村整備事業はもとより、環境との調和への配慮や地域社会との連携・理解が深まるよう努力して参ります。皆様にはなお一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

石巻産業振興事務所 農業農村整備部長 森雅美



創刊号の目次:

発刊にあたって	1
三輪地域活性化委員会 活動状況	2
石巻管内農地集積情報	2
河南3期地区が 起工しました	3
「木材利用についての 現地検討会」を実施	3
農地整備環境機能 増進事業について	4
知っていますか？ 農業農村整備部のHP	4

三輪田地域活性化委員会活動状況 ～活性化プラン策定に向けて～

河北町三輪田地域では、平成13年度から「みやぎの生き生き地域づくり支援事業（みやぎ手づくりプラン）」（事業主体：河北町二俣土地改良区）を実施しています。この事業は、地域住民の自主的な活動や話し合いをとおし、自らが自分たちの住む地域の将来構想をまとめていく事業であり、三輪田地域でも「三輪田地域活性化プラン」策定に向けた作業が佳境に入っています。

活性化プラン策定の中心となっているのは、行政区長や地域の農業者で構成する「三輪田地域活性化委員会」の30名のメンバーです。

昨年度は、先進地への視察研修や、地域講演会を開催し、地域活性化に向けた取り組みを学ぶとともに、地域内全世帯を対象にしたアンケート調査で、地域の現況や課題を把握しました。

具体的にプラン策定活動をすすめる今年度は、「今昔 遊び場・宝物再発見ウォーキング」と題したワークショップ方式のイベントを開催しました。集落点検と点検マップ作成によって普段の生活では気付かない地域のもつ魅力や改善点を発見し、さらに作成した点検マップをもとに将来構想を作成するというものでした。イベントには小学生から60代までの地域の老若男女約60名が参加し、それぞれ世代年代ごとに特長のある点検マップと将来構想を作成していました。

現在は、これらの成果をもとに、三輪田地域活性化委員会において、営農の展開方向や生活文化の創造といった、課題ごとの地域目標や具体的な行動計画（アクションプラン）について何度も議論を重ね、「三輪田地域活性化プラン」の編集作業に入っています。

今後、策定された「三輪田地域活性化プラン」については、地域内全戸配布を行う予定です。

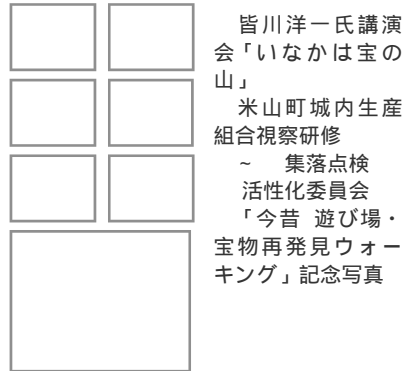
石巻管内農地集積情報

国内の農業・農村をとりまく情勢は高齢化や担い手不足が進み、依然として厳しい状況にあります。しかしながら一方では、多様化する食料需要への対応や、競争力のある農業への体制の確立が求められています。

このような状況をふまえて、宮城県では平成12年に「みやぎの食と農の県民条例」を施行し、平成13年には基本計画を策定しました。基本計画では担い手への農地利用集積率を平成22年度までに72%とする目標を設定し、現在この目標達成に向け各種施策を展開し、担い手への農地利用集積に積極的に取り組んでいます。

そこで宮城県では今年度より、さらなる農地利用集積を推進するために、県内各地で実際に担い手として活躍されている方々や、農地利用集積に貢献・指導されている方々15名を農地集積アドバイザーとして委嘱し、研修会や講演会等をおとして農地利用集積や担い手育成等について指導助言をしていただくこととしました。

詳しくは農地集積指導センターホームページ (<http://www.mlw.or.jp/center/>)をご覧ください。



皆川洋一氏講演会「いなかは宝の山」
米山町城内生産組合視察研修
～集落点検活性化委員会「今昔 遊び場・宝物再発見ウォーキング」記念写真



ほ場整備事業河南3期地区が起工しました

平成14年12月、ほ場整備事業河南3期地区（平成13年度採択）が起工しました。

河南3期地区は河南町東部に位置し、旧北上川、国道45号線、JR石巻線に囲まれ、さらには現在、中央部を縦断する形で三陸縦貫道路の建設がすすんでいます。

今後は工事の進捗に伴い、1ha区画を中心とした大区画化および汎用化が図られ、効率的な営農を推進できる条件が整います。それと同時に、担い手への農地集積をすすめ、現在平均1.1haとなっている経営規模を拡大し、競争力のある農業の担い手の育成をしていくこととなります。

事業概要	
事業名	担い手育成基盤整備事業
地区名	河南3期
関係市町村	河南町
地区面積	107.0ha
総事業費	1,490百万円
受益農家数	115戸



河南3期地区の全景



河南3期地区起工式（平成14年12月）

「木材利用についての現地検討会」を実施

石巻産業振興事務所農業農村整備部では、広報広聴ワーキンググループをつくり、その活動の中で木材の利用促進についての検討もっており、今回は木材に関する知識を得るため、同所林業振興部の協力をいただいて、木材利用についての現地検討会を12月25日におこないました。

検討会では、まずはじめに、実際に間伐を行おうとしている河南町の町有林を見学してきました。その中で間伐の必要性について、「木が生長するにしたがって、木が混みすぎると日光が遮られ、ひ弱な木となるため、間引きをおこない木の生長を助けるとともに、下層植物が繁殖し土壌が保全され水源涵養や国土保全に役立っている。また、スギの単価については、昭和30年代から40年代にかけて外来種の木材がはいってきたため、昭和30年代の単価から変化していない状況にある」との説明を受けました。

その次に実際に木材の加工をしている、河南町和瀨の鈴寛木材株式会社を見学してきました。すべてスギ材で加工しており、土壌改良材の木炭や柱・床板などの木造建築材などをつくっているとのことでした。また、木材の耐用年数を上げるために燻煙乾燥等もおこなっており、この乾燥法により通常の乾燥材の倍の寿命を得られるとの話もありました。

今後、実際に農業農村整備事業の中で木杭等で使用していく場合には、多くの需要があれば対応していくことも可能であるとの話も得られました。

最後に石巻市真野にあるウッドリサイクルセンター（石巻地区森林組合）において、間伐材をオガ粉やチップに加工している現場を見学してきました。オガ粉については家畜敷料等に、チップについては公園の遊歩道や暗渠の疎水材等に活用されているとのことでした。チップは水質浄化作用に優れ、耐久性ももみ殻に比べて長いという性質がありますが、単価が高いなどの課題もあるようでした。

間伐材をはじめ木材の利用に関しては、課題等もありますが、今後部内でも利用促進についての検討をおこない、同時に農家を含めた地域住民へのPR活動により理解が得られればと考えています。



河南町町有林にて説明を聞く当部職員



ウッドリサイクルセンター
チップ・オガ粉分別所